資料２

令和４年度

事業の課題に対する
健康局の取組み状況について

大阪市における在宅医療・介護連携推進事業のめざすべき将来像

医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者が、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、多職種協働により在宅医療と介護を一体的に提供できる体制が構築されている。

めざすべき将来像に向けての局の課題

1．事業の進捗管理

2．広域連携の仕組みづくり

3．区役所・相談支援室に対する積極的支援

課題１　　事業の進捗管理

課題１に対する今年度の取組み

（１）評価指標での進捗管理

➡ 議事（３）にて報告

（２）区役所・相談支援室への取組み調査からみる事業の進捗管理

・事業の取組み状況について区役所、相談支援室へ2回/年調査を実施
・個別支援の実施

課題２　　広域連携の仕組みづくり

課題２に対する今年度の取組み

①ACPを実践していくための多職種研修会の開催
➡多職種研修会『地域でつなぐアドバンスケアプランニング（ACP)』を開催
令和４年11月10日　113名参加
②大阪市『在宅医療・介護連携相談支援室』活動報告会の開催

大阪市『在宅医療・介護連携相談支援室』活動報告会

【日　時】 令和５年２月４日（土）　午後２時～４時30分

【内　容】 基調講演 『ソーシャルキャピタルと持続可能な社会、地域包括ケアシステム』

講師：国立保健医療科学院　院長　曽根智史氏

報告　　大阪市内「在宅医療・介護連携相談支援室」の活動報告

【場　所】 大阪市中央公会堂

大阪市『在宅医療・介護連携相談支援室』活動報告会　アンケート結果

【参加者】 160名　　【回収数】 124名（回収率：77.5%）

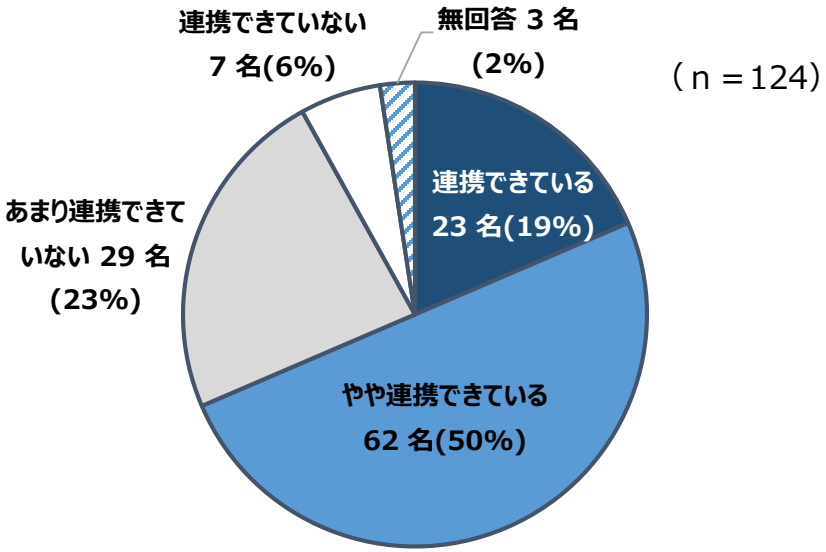
１）所属先の所在地

大阪市内	大阪府内	大阪府外
105	17	2

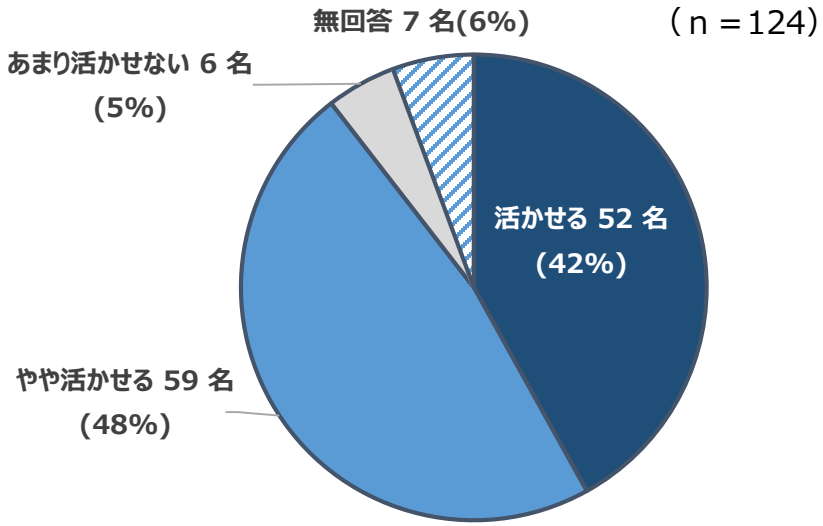
２）所属先

病院	診療所・クリニック	歯科医院	薬局	訪問看護ステーション	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	訪問介護事業所等	行政	在宅医療・介護連携相談支援に関する窓口	その他	計
14 (11.3%)	5 (4.0%)	2 (1.6%)	21 (16.9%)	10 (8.1%)	13 (10.5%)	11 (8.9%)	1 (0.8%)	24 (19.4%)	11 (9.7%)	12 (9.7%)	124 (100%)

3）他職種との連携について



4）基調講演について
今後の業務にどの程度活かせるか



5）相談支援室の活動について

【活動報告】

〇北ブロック

（北区・都島区・淀川区・東淀川区・旭区）

『ACPをかなえるために』

〇西ブロック

（福島区・此花区・西区・港区・大正区・西淀川区）

『各区ACPの取組みから見えてきたもの』

〇東ブロック

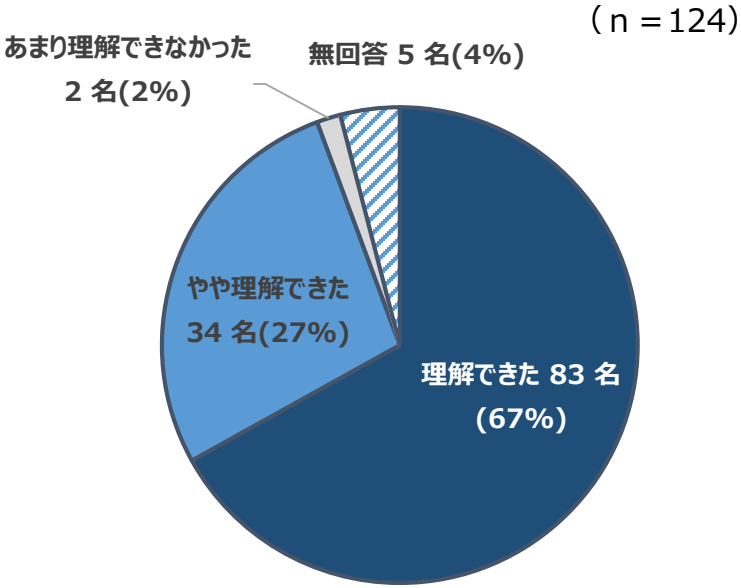
（中央区・天王寺区・浪速区・東成区・生野区・城東区・鶴見区）

『連携しやすい環境づくりを　７区の連携で』

〇南ブロック

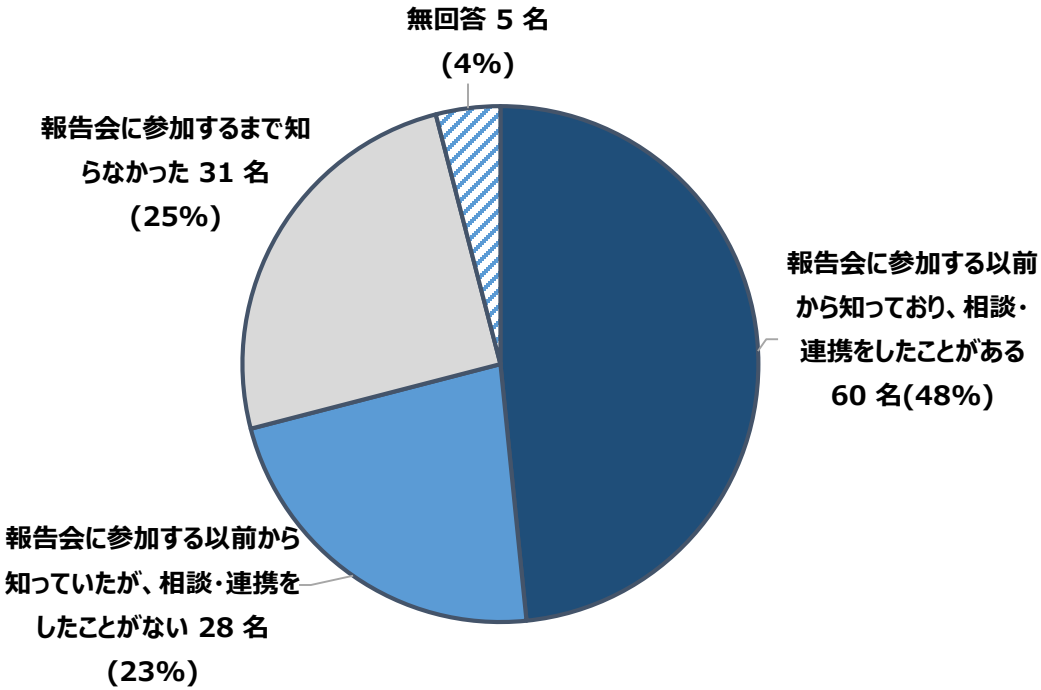
（阿倍野区・住之江区・住吉区・東住吉区・平野区・西成区）

『「かかりつけ」医・歯科・薬局の必要性の周知について』



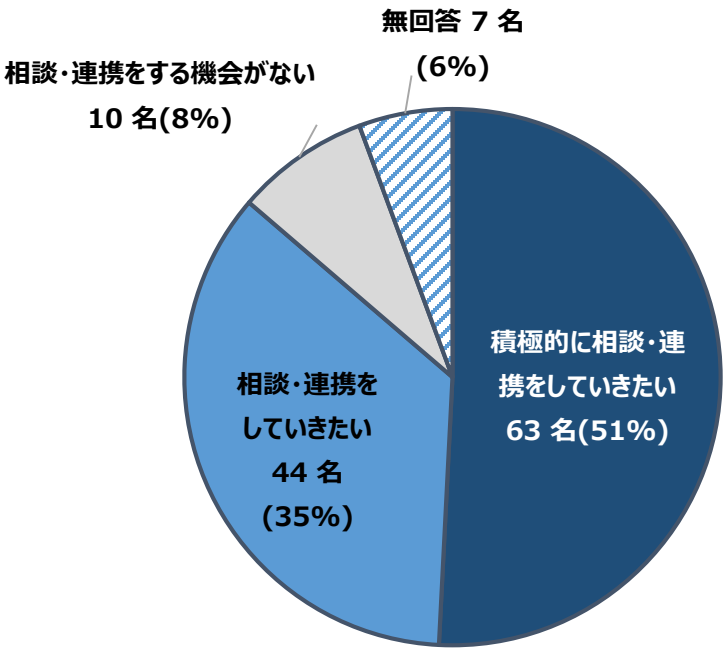
6）相談支援室の認知度について

（n＝124）



7）今後の相談支援室との連携について

（n＝124）



【北ブロック】

【西ブロック】

【東ブロック】

【南ブロック】

【基調講演の内容について】

・人と人とのつながりの大切さを再確認できた。
・まちづくりへの視点を学ぶことができた。
・ソーシャルキャピタルの概念や、高めるための気づきを得ることができた。
・ソーシャルキャピタルの醸成の必要性をアピールすることで、住民の理解が得やすいと感じた。
・「ソーシャルキャピタル」と聞いて、なじみのない学術的な言葉なのだろうと思って参加したが、講義を通じ、普段私たちが必要性を感じているそのものだと理解ができた。
・橋渡しや連結をする組織や機関の重要性、「包摂」「誰も取り残さない」役割について、事例を含め詳しく理解できた。
・今まで意識せずにしていたことが、見える化・図式化で拝見することができ、ソーシャルキャピタルの根幹が理解できた。

【今後の相談支援室との連携について】

・相談支援室の思いを感じて、一緒に協働してくれる安心感を感じた。
・かかりつけのない方（病院にかかる必要がない高齢者）に、かかりつけ医をもってもらうために、どのようにしたらよいか相談していきたい。
・連携を進めることが、区民のためになると思った。
・まだまだ連携が不十分なので、もっと連携を進めていきたい。
・在宅生活、自宅で息を引き取る人が今後増えるので、連携をしていきたい。
・在宅医療に携わり、連携の大切さを学び、一人ひとりの利用者様の過ごし方、理想を実現していきたいので、相談支援室と連携していきたい。
・薬局は高齢者の利用が多く、独居の方も多いため、薬局だけでは対応できない事例も出てくることがあるので、もっと多職種の方と連携をしていきたいと思っている。
・専門職として、地域貢献できるよう、連携して取り組みたい。
・歯科医院として、地域に貢献していきたい。今後どのような連携ができるか知りたいと思う。
・困難ケースを抱え悩んでおり、部署内で解決することばかりであったが、相談や連携をすることで、もっとより良い方法があるのではと感じた。

【活動報告について】

・24区、様々な取り組みをされ、改めてコーディネーターの重要性を感じました。
・各ブロックの方々が、こんなに真剣に各地域で「連携」を大事に考えてくださっていることを知り得た。
・色んな職種の方が、市民のために様々な活動をされていることを知ることができて、大変勉強になりました。
・他区の取り組みを見て、自分の地域でもできることがたくさんあると、新しい視点やアイデアが得られた。
・ブロック毎にテーマを決めての報告が分かりやすく興味深かった。
・各ブロックの発表がとても良かったです。それぞれに特色あり、動画などもあり他区の取り組みも分かり、理解が深まりました。
・かかりつけの周知やACPの周知、啓発活動を知ってもらうことで、スムーズな医療が受けられるようになればいいと思いました。
・地域の介護事業所として、ご一緒に「何ができるのか？」を具体的に考え、思いを共有し、社会・地域課題に取り組みたいと思いました。
・コロナで中々連携できない中、多職種連携の大切さがよく分かった。
・連携を取ることが重要だと感じました。
・他区との連携は良い考えと思いました。他区の良い考えや良い所を取り入れ、連携しあい、刺激しながら、さらに良い方向に進められるのが理想です。
・ブロック毎に抱える問題は様々だと思いますが、良いところを互いに吸収し合って、もっとより良い活動ができれば良いなと思いました。
・今回の報告会の場は、ブロック＋会場参加者の交流の場として、連携の意味を持ったと思います。

【その他】

・府内の連携ネットワーク
・区を超えて、近隣区・市との連携の重要性を改めて感じた。

課題３　　区役所・相談支援室に対する積極的支援

課題３に対する今年度の取組み

（１）区役所への支援

①『在宅医療・介護連携推進事業　区担当者等説明会』の実施
令和４年５月20日（金）開催　　30名（新任者14名）参加

②区役所への個別支援
令和３年度の取組み調査より支援が必要な区を抽出し、４月より支援開始
担当者と面談し、事業および昨年度の区役所の取組み状況について説明
以降、適宜取組み状況を確認し、支援

（２）相談支援室への支援

【新任コーディネーターへの個別支援】
・経験の浅いコーディネーターが配置されている区に対して、面談や電話にて支援
・人材育成チェックリストを用い、達成度を確認
・報告様式の作成、取組み報告の資料の作成について支援

【相談支援室への支援】
・コーディネーター連絡会で情報共有のため各区の相談支援室の取組みについて発表
・経験年数に分け、事例検討の実施
・活動報告会に向けて、ブロックごとに発表内容を検討、検討内容について全体に共有
・活動報告会の実施

（３）区役所・コーディネーターのスキルアップと連携

・『第１回　区役所実務者、在宅医療・介護連携支援コーディネーター合同研修会』の開催
令和４年６月27日（月）
『診療報酬改定から見えてくる地域包括ケアシステムの国の動向』
区役所職員　46名　　コーディネーター27名　参加

第２回　区役所実務者、在宅医療・介護連携支援コーディネーター合同研修会

【日　時】 令和５年２月22日（水）　午後２時～５時

【内　容】『在宅医療における薬局・薬剤師の役割について』

山原 大輝氏（大阪府薬剤師会　理事）

パネルディスカッション

『薬局・薬剤師との連携の実際～福島区の取組み報告～』

横井 仁一氏（福島区薬剤師会　副会長）

村尾 景子氏（福島区在宅医療・介護連携相談支援室）

グループワーク

『薬局・薬剤師とのより良い連携について考えよう」

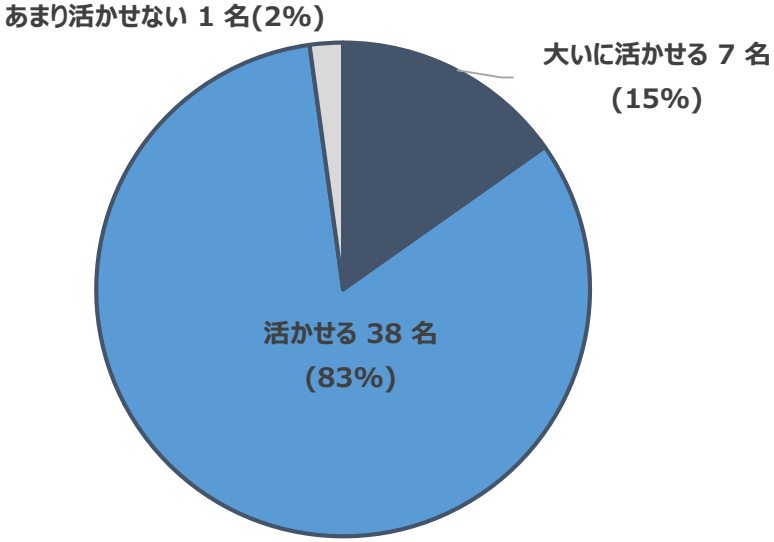
【場　所】 福島区民センター

第２回　区役所実務者、在宅医療・介護連携支援コーディネーター合同研修会 アンケート結果

【参加者】
区役所職員　　23名
コーディネーター　23名

【回収数】
区役所職員　　23名
コーディネーター　23名
（回収率　100%）

【今後の事業に活用できるか】



【自由記載】

【研修会の内容について】
・薬剤師会との連携をするための工夫を考えることができました。
・薬剤師さんが、在宅でどのような役割を担えるのかということが理解できた。
・薬局の機能を知り、身近な医療としてとらえることができた。メリットを伝える方法や場を考えていきたい。
・これまでの訪問診療で、薬剤管理は訪問看護師・ヘルパーさんに一任することが多かったが、やはりそこには限界があることと常々感じておりましたが、今後は大いに薬剤師の先生にご協力をお願いしていきたい。
・薬局の役割は大きく、日頃の利用者の様子を観察して相談できる介護者にとっては大きな味方なので、本日の講義は改めて学ぶことができました。
・薬の副作用について情報は薬剤師の先生が詳しいと思います。今日のお話しをお伺いして、医療・介護の多職種の方に、薬剤師さんに相談できるよう情報を伝えたいと思います。

・どうしても医介連携というと、主治医と介護事業者になりがち。薬剤師や歯科医との連携も強めていきたい。
・グループワークでまだまだ連携の課題が多いことが認識できたので、区で共有していきたい。
・日頃、薬剤師会との連携がとれていないという程でもないと思っていたが、改めて聞くと、薬剤師さんともっと話す機会が必要だと思いました。
・薬剤師さんの居宅管理をサービスの中に入れている居宅介護支援専門員も増えていますが、なかなか十分な連携ができていない感じがあります。薬剤師さんからもっと自分達の役割や取り組んでいることをアピール・発信してほしいと思っています。その場を設定するのが、コーディネーターの役割の一部だと思うので、今後、薬剤師さんとの連携強化に取り組んでいきたいと思いました。
・やっているつもり、わかっているつもりは、利用者に限らず、ご家族も、また支援者にもあることなので、連携を疎ましいと思わず、積極的に社交的に行いたいと思いました。
・薬剤師と居宅介護支援専門員を繋ぐ手段を考える一助になりました。
・薬剤師会と居宅介護支援専門員の交流会等できればと思います。
・地域住民にも知ってもらう機会が必要だと思いました。

【今後の研修会への要望】
・病院で患者さんの退院支援をされている部門の担当者の話を伺ってみたい
・訪問歯科の現状・歯科との連携
・介護系の方、ヘルパーの方の話を聞いてみたい